国語

TYPE S・L

3 四

「叙述を根拠に自分の考えをもつ」

～「吾輩は猫である」を読む～

文章に表れているものの見方や考え方を捉えて自分の考えをもつ際に，文章の内容を捉えた上で，自分の考えの根拠となる具体的な表現を明確にすることに課題が見られました。そこで，本授業アイディア例では，夏目漱石の「吾輩は猫である」を読んで，具体的な叙述を根拠に自分の考えをもつ学習を提案します。調査で見られた課題となる解答例を取り上げて，書かれている考えの根拠となる叙述について検討したり，別の場面を読んで自分の考えを書き，書いた内容を他の人と交流したりすることを通して，叙述と結び付けて自分の考えをもつ力を身に付けることをねらいとします。

課題の見られた問題の概要と結果

3 文学的な文章を読む（「吾輩は猫である」）

3四 正答率 **20.8%**

「吾輩」が「黒」をどのように評価し，どのような接し方をしているかや，そのような接し方をどう思うかを書く。

学習指導要領における内容

〔第１学年〕
思考力，判断力，表現力等
C　読むこと　オ

●TYPE S で授業を行う際は，「第１時」の学習の流れを参考にするとよい。

授業アイディア例

教材例

- 「吾輩は猫である」（令和３年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語3）（TYPE S・L の場合に使用）
- 教科書に掲載されている文学的な文章など（TYPE L の場合に使用）

第1時

❶ 学習の見通しをもつ。

教師

「吾輩は猫である」は長く読み継がれている作品です。今回はこの作品を読み，叙述を根拠に自分の考えをもつ学習をします。まずは，この作品が，読んだ人たちにどのように受け止められているのかを見てみましょう。

❷ 「吾輩は猫である」について，インターネット上にあるレビューを読み，作品がどのように受け止められているのかを知る。

〔インターネット上のレビューの例〕

猫の視点から見た人間の姿を皮肉を交えながら，どこか滑稽に描いている作品。	時には批判的に，時にはユーモアを交えて話が進んでいるところが面白かった。	当時の社会やそれに影響を受ける人間たちを猫の視点で眺めた作品で，今読んでも共感できる点が多い。

たくさんのレビューがあり，現代でも多くの人に読まれていることが分かりました。私も作品全体を読んでみたいと思いました。

「滑稽」や「ユーモア」というコメントがありますが，作品の中のどの場面や描写からそう感じたのでしょうか。

❸ 令和３年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語3の【文章の一部】を読み，次の解答例について，根拠として考えられる叙述を各自でノートに書く。

〔課題が見られた解答例〕　※　ここでは，解答類型４の典型的な解答例を示す。

「吾輩」は「黒」を少し見下して接している。このような接し方は相手に失礼だと思う。

皆さんの解答の中には，どこからそう感じたのかが分かりにくいものがありました。文章を読んで考えをもつ際には，具体的な叙述に基づいて考えることで，自分の考えが整理されたりより確かなものになったりします。例えば，この解答には「少し見下して接している」とありますが，どの叙述が根拠になると思いますか。

❹ ❸で書いたことをグループで交流する。

「元来黒は自慢をするだけにどこか足りないところがあって」という叙述から，「吾輩」が「黒」を見下していると考えることができます。

私もそう思いました。他にも，「『へえ，なるほど』と，あいづちをうつ。」や「無学の黒」などという表現も「見下して接している」と考える根拠になるのではないでしょうか。

「無学の黒」という部分は，確かにそうですね。しかし，「『へえ，なるほど』と，あいづちをうつ。」という「吾輩」の行動が，なぜ「黒」を見下していることになるのでしょうか。むしろ，「吾輩」は「黒」に共感していると受け止めるべきではないでしょうか。

その部分だけを見ると共感しているとも言えますが，「『うまくやったね』と喝采してやる。」など，「吾輩」と「黒」の一連の会話と結び付けて考えると，「見下して接している」と解釈することもできます。

「吾輩」が「黒」を見下していることが分かる叙述は，一箇所だけとは限らないのですね。また，一つの叙述だけでなく，複数の叙述を結び付けて考えることも大切なのですね。

第2時～第4時

❺ 第１時に読んだレビューを基にして「吾輩は猫である」の別の場面を各自で選んで読み，❹の学習を踏まえて自分の考えをノートに書く。

※ ここでは，「吾輩は猫である」の最初の場面を取り上げた学習例を示している。生徒の実態に応じて，教師側で取り上げる場面を決めたり，文章の長さを工夫したりすることも考えられる。

別の場面を読む際にも，具体的な叙述に基づいて自分の考えをもつことが大切です。その上で，互いの考えを交流することで，作品の受け止め方がより豊かなものになります。

❻ ❺で書いた内容をグループで交流し，互いにコメントを書く。

交流する際の観点の例 ポイント

- 取り上げた叙述について，どのように理解したかが書かれているか。
- 具体的な叙述を基にした考えが書かれているか。
- 自分自身の考えと共通している点や異なっている点はどこか。

など

〔最初の場面〕

吾輩は猫である。名前はまだない。

どこで生まれたか、とんと見当がつかぬ。なんでも、薄暗いじめじめしたところでニャーニャー泣いていたことだけは記憶している。吾輩はここではじめて人間というものを見た。しかもあとで聞くと、それは書生という、人間中でいちばん獰悪な種族であったそうだ。この書生というのは、ときどきわれわれをつかまえて煮て食うという話である。しかしその当時はなんという考えもなかったから、べつだん恐ろしいとも思わなかった。ただ彼のてのひらにのせられてスーと持ちあげられたとき、なんだかフワフワした感じがあったばかりである。

（中略）

吾輩の主人は、めったに吾輩と顔を合わせることがない。職業は教師だそうだ。学校から帰ると終日書斎にはいったぎり、ほとんど出てくることがない。うちのものは大変な勉強家だと思っている。当人も勉強家であるかのごとく見せている。しかし実際は、うちのものがいうような勤勉家ではない。吾輩はときどき忍び足に彼の書斎をのぞいてみるが、彼はよく昼寝をしていることがある。ときどき、読みかけてある本の上によだれをたらしている。

（夏目漱石「吾輩は猫である」による。）

〔Aさんのノートの例〕

〈自分の考え〉

レビューには、「猫の視点から見た人間の姿を皮肉を交えながら、どこか滑稽に描いている」とありましたが、「しかし実際は、うちのものがいうような勤勉家ではない。」や、「読みかけてある本の上によだれをたらしている」という叙述から、この場面では「吾輩」は「主人」のことを軽く見ていることが分かります。飼い主のことを尊敬していたら、こんなことは言わないはずです。この点は、全員で読んだ「吾輩」と「黒」のやりとりの場面での「黒」に対する接し方と似ている感じがしました。「吾輩」が現代にいたら、私たちのことをどう感じるのかが気になります。

〈（ B ）さんからのコメント〉

「『主人』のことを軽く見ている」とAさんは書いていますが、この場面には「吾輩はときどき忍び足に彼の書斎をのぞいてみる」という叙述もあり、「主人」のことが嫌いだったらそのようなことはしないので、愛着を感じていると受け止めることもできます。

〈（ C ）さんからのコメント〉

「『黒』に対する接し方と似ている」とありますが、どのように「似ている」のかをもう少し具体的に書いた方がよいと思います。また、「吾輩」の生きていた時代とは異なる現代の中学生を、「吾輩」がどう評価するかについては、私も気になります。

❼ 学習を振り返る。

本授業アイディア例 活用のポイント！

- 学習の流れの❺，❻については，ワープロソフトのコメント機能を活用して，互いに交流する活動も考えられる。
- 本授業アイディア例での学習を活用し，「吾輩は猫である」や他の文学的な文章についてのレビューを各自で書くなどの学習活動も考えられる。

参照「令和3年度　報告書　中学校　国語」P.32～P.40，「令和3年度　解説資料　中学校　国語」P.23～P.30